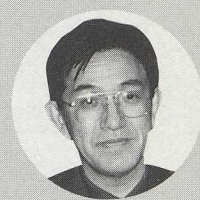


IEEE 歴史センターの歴史的資料

松本 栄寿



技術の歴史を調べ原点を知ろうとすると、博物館・展示室・アーカイブス（古文書館）を旅するのが欠かせない。そこには新たな人と資料との出会いがあり、思いがけない発見がある。

私は1993年から94年にかけてワシントンのスミソニアン協会・国立アメリカ歴史博物館に客員研究員として滞在した。滞在の目的は、横河電機が計画している「計測の技術館」（仮称）に必要な技術の習得と電気計器の歴史を研究することにあった。アメリカ歴史博物館の電気・近代物理部門バーナード・フィン博士の部屋に机を置き、フィン博士から博物館の展示思想の教育を受けた。またその間に電気とはかる計器（Instruments）の歴史を研究するため主に東海岸の博物館、アーカイブスを訪ね歩いた。これからの連載はその記録であるが、読者の研究のガイドに役立つよう文献も掲載する。

まず、ニュージャージー州のラトガース大学構内にある IEEE 電気技術歴史センターから話を始めよう。同センター 1979 年に発足し、所長アスプレー博士は常勤の歴史家である。年3回発行されるニュースレターには電気史関係の世界の情報が掲載されている。また、ラトガーズ大

まつもと・えいじゅ 1957 年静岡大学工学部電子工学科卒業。同年横河電機（株）入社。現在、技術館準備室勤務。学芸員。横河総合研究所理事。1994 年スミソニアン協会・アメリカ歴史博物館客員研究員。同年メリーランド大学・大学院技術史講座留学。1994 年千葉県現代産業科学館客員研究員。学習院大学非常勤講師（自然科学史）。



ラトガース大学（ニュージャージー州）構内にある IEEE 電気技術歴史センター

学には通称エジソンプロジェクトと呼ばれるエジソンの膨大な研究資料をマイクロ化・文書化するプロジェクトも設置されている。IEEE 歴史センターの出版物には、歴史研究者にとって貴重な次の2冊がある。

1. Joyce E. Bedi, Ronald R. Kline, and Craig Semsei: *Sources in Electrical History: Archives and Manuscript Collections in the U. S. Repositories*, 1989

歴史の研究者たちに一次資料の収納庫を知らせ、カーカイクスや収納庫に資料の収集・保管を奨励するため作られた。全部で1,008か所が紹介されている。

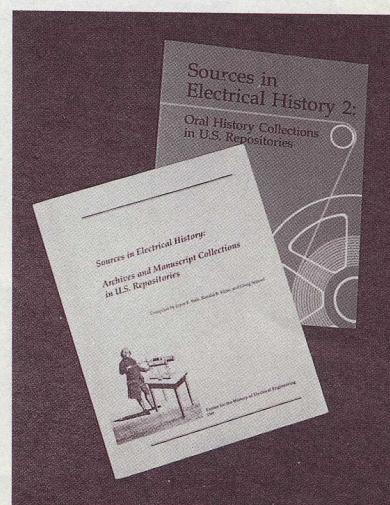
2. *Sources in Electrical History 2: Oral History Collections in U. S. Repositories*, 1992

全国64か所に保管されている1,000本のインタビューテープの内容が紹介されている。インタビューの日時・場所、聞き手・話し手、筆記記録の有無が記載されている。

次回からは、これらの資料も利用しながら「技術の歴史の旅」を博物館、地方に点在するコレクション、アーカイブスを訪ねる。

注

- (1) アーカイブスについては、松本栄寿「米国の技術史教育の体験とスミソニアン協会」、電気学会電気技術史研究会資料 HEE-95-4, pp.29-40, 1995 年を参照。
- (2) IEEE 歴史センターについては「インタビューして先達の動機や個性浮き彫りに」、電学誌 Vol.115, No.1, pp.49-53, Jan.1995 を参照。所在地は Center for the History of Electrical Engineering, IEEE, Rutgers Univ. 39 Union Street, New Brunswick, N. J. 08903, USA
- (3) アメリカの電気技術史研究活動については『電気学会技術報告』第530号, pp.39-43, 1995 年を参照。



電気歴史の情報源 1 (1989) と 2 (1992)